



「未来の幸せ」を考える⑤ ～「自律的な学習者」を育てる～

校長 山田 哲哉

6年4組の教室の後ろに、使い終わった家庭学習のノートがタワーのように積み上げられています。その数201冊、約81cm（1月16日時点）。年間の目標180冊を既に超えています。一人一人がこつこつ取り組んだ成果が、目に見える形で示されています。量ではありません。次のように内容もバラエティに富んでいます。

- ・「太平洋戦争」「比例と反比例」「資料の整理」「分数の計算」「水溶液の性質」「(外国語)UNIT7」など、授業と関連付けた予習、復習。
- ・「数学のポイントまとめ」「電気と私たちの生活」「太陽と月の違い」「戦争から復興までの日本の歩み」「地球の中はどうなっているか」等、興味をもった分野の調べ学習。
- ・BTSの「Dynamite」の歌詞と和訳、将棋の戦法など、趣味や楽しみを追究したもの。

担任からの一言だけでなく、子ども同士で見合って一言書いているのも素敵です。「表がきれいで見やすいね」「グラフがすごく分かりやすいと思いました」「課題、まとめ、実験方法も書いていていいね」「→とか使っていていいと思う」「色をたくさん使ってまとめていていいね」など、工夫している点を認め合うことで、よりよい家庭学習の内容や方法を共有し合うとともに、「学級自尊感情」の醸成にもつながっています。

やらされている、仕方なく取り組んでいる、目標時間をクリアするだけの家庭学習ではなく、主体的に、工夫しながら、楽しみながら取り組んでいる家庭学習です。

全国学力・学習状況調査の質問紙のここ数年の集計結果を見ると、新潟市は、他の自治体とは逆に、中学生になると家庭学習時間が伸び悩む傾向にあります。これは中学校の問題ではなく、小学校段階で、漢字練習、計算練習などドリル的な学習が中心となっているため、子どもたちが家庭学習に意義を見いだしていないからだと分析されています。

当校では、プリントやドリルを一律に出す宿題、家庭学習は、「やらされる」学習であり、「こなす」「処理」が目的になっているとらえました。そこで、「やらされる→自分でする宿題・家庭学習」「自律的な学習者を育てる家庭学習」を目指しています。

4月の職員研修で、「作業でも、こなすものでもなく、考える」「分からないことが分かるようになる」「言葉の力が付き、心の栄養につながる」「自己肯定感が高まる、自信が付く」家庭学習を目指そうと、全教職員で確認し合いました。

前述の6年4組の家庭学習の取組は、正にこの方針に合致し、子どもたちが「**自律的な学習者**」として育っていることを示しています。

先週、授業を見て回っていると、4年4組で家庭学習について再確認していました。

担任は「家庭学習って何のためにある？」と問い掛け、子どもから考えを聞いた後、「自分自身で、自分に必要な力を身に付け、自分で問題を解決することができるようになるため」「キーワードは『自分』。『自分のため』にやるものへチェンジしましょう」と、力強く子どもに働き掛けました。5年生に向けて、4年生全体で『やる内容』と『方法』を選んで自分から取り組む家庭学習を目指しています。

自分で課題を見付け、自分が追究したいことを、楽しみ、工夫しながら学ぶ「自律的な学習者」は、中学校へ行っても、その先も、就業しても、自らの未来を自ら切り拓いていくことができるでしょう。そう信じて期待し、お子さんの日々の家庭学習の取組を見守り、励まし、よさを褒め、伸ばしていきましょう。